



十中だより

4月号

令和6年4月13日
文京区立第十中学校
校長 南 英昭

令和6年度の始まり



今年度は、正門の桜が例年より開花が遅く、皆さんの進級や入学式を待っていたかのように、新たなスタートを満開の桜が出迎えてくれました。

桜の木は、花を咲かせるために大きな幹とそれを支えるしっかりとした根が必要です。特に花を咲かせる時期は、多くの栄養が必要で、根から大量の養分を吸い上げるために水分を多く必要となります。花見の時期はどうしてもきれいな花に目がいきがちですが、それを支える幹や根があって、はじめてきれいな花が開きます。目立たないところでの地道な努力が物事を成し遂げるには大切であることを教えてくれているのかも知れません。十中では、表にはでていないけれども真摯に、自分のため、そして周りのために労を惜しまない生徒が多く存在します。そのような行動

に少しでも多く気づき、支援し賞賛できればと考えています。

《始業式》 4月8日（月）の始業式では、年度末の修了式から10日ほどしか経っていませんが、堂々と落ち着いた態度で式に臨み、真剣に話を聞き入る姿が印象に残りました。学年が1つ上がったということに対する自覚や責任、そして期待や意気込みが強く感じられる初日となりました。全体学活の後、上級生として翌日の入学式の準備に勤しむ姿は頼もしくみえました。

《入学式》 4月9日（火）の入学式は、77名の新入生を迎え、3学級でのスタートとなりました。代表生徒の誓いの言葉では、大切にしたいことを「桜梅桃李」「積水成淵」という2つの四字熟語で表現してくれました。「桜梅桃李」を通して他人と比べず個性を磨いていくこと、「積水成淵」からは小さな努力を積み重ね大きな夢を叶えていきたいと宣言してくれました。



《新入生歓迎会》 4月12日（金）、十中について早く理解してもらえるよう、新入生歓迎会を生徒会が中心となって企画し、実施しました。伝統の劇による十中生活の紹介では、一日の生活や委員会活動をわかりやすく表現してくれました。その後部活動の紹介があり、各部工夫を凝らしたわかりやすい内容で、見ている人を楽しませてくれました。



代表生徒が描いたパンフレットの表紙